



『日本の農業の現状と今後のありかた —TPPと6次産業を見据えて—』

はじめに

TPPにどう向かえばいいのか産学官連携の観点からみる。

I. 日本の農業の現状

【筆者紹介】
高橋 貞三

- ・(株)アーゼロンシステム
コンサルタント 代表取締役
- ・食品関連コンサル協議会
(FCC) 副会長
- ・スモールビジネス産学連携
支援センター(JSBIC) 理事
- ・東アジア経営学会国際連合
(IFEAMA) 理事
- ・NPO 東連ジャパン 理事

農業人口	894万人 (1965年：S40)	178万人 (2012年：H24)	80%の減少
農地	600万ha (1965年：S40)	455万ha (2012年：H24)	24%減
平均年齢	59.6歳 (1995年：H7)	66.2歳 (2012年：H24)	6.6歳の高齢化
放棄耕作地	13.5万ha (1975年：S50)	40万ha (2010年：H22)	2.96倍増加
国民一人一年間 の米使用量	112kg (1965年：S40)	58kg (2011年：H23)	41%減少
米産出額	約3.9兆円(33.6%)	約19兆円(33.6%)	51%減少
農業総産出額	11.6兆円 (1985年：S60)	8.2兆円 (2011年：H23)	29.3%減少

(出所:週刊ダイヤモンド2013年4月13日号“日本の農業”)

II. 農業の6次産業化を目指すには

- 第1 “需要と供給”原則の“需要”を確保すること。
- 第2 農業コストを重視する。
- 第3 JAや地元農協と一線引くこと。

III. TPPと日本の農業 —TPP加盟後、日本の農業はどうなるのだろうか?—

1. 自由化率(想定85~90%)を96~98%に引き上げる。“聖域”ギャップの線引きが必要。
2. 日本の国力はGDPは世界第3位、人口は世界第10位、農業生産額は世界第5位の経済大国。
3. “安全と味覚”で世界進出が可能。
4. 生産減額試算では農産物2兆6600円、林水産物で3000億円、合計約3兆円

IV. 日本の農業の今後 TPP加盟で日本の農・林・水・畜産業は全滅するか?答えは“NO”である。理由は

1. 「安全・安心」な食べ物 ⇒日本GAP協会の認定
2. 味は世界一 ⇒日本官能評価学会
3. 農業・水産加工技術を世界に広めてきた⇒JICA
4. 21世紀型農業・水産業を模索している ⇒ コスト、マーケティング、地球環境にやさしい、若者に魅力!

結び 〈日本の農業強化策第8項目〉

- ①放棄耕作地を統合
- ②農業法人を設立
- ③大規模農法
- ④高付加価値商品の選択
- ⑤安全・安心な栽培方法
- ⑥生産・出荷時期を調整
- ⑦生産管理システムとインターネットで、コストダウンとマーケットリサーチ
- ⑧若者に魅力ある農業

■編集後記・・・♪d(^v^)^b♪ピッチピッチ チャブチャブ 梅雨入りだ~(^v^)

編集責任者:高橋 貞三 編集:梶川 智子